アート展「Hibakujumoku - the trees in a community - Kikyo 帰郷」について

中原祥之・富澤まり

はじめに

植物公園では、被爆80年特別企画展に関連したイベントとして、アート展「Hibakujumoku - the trees in a community - Kikyo 帰郷」を2025年11月8日（土）から11月30日（日）の日程で開催した。企画の経緯と展示内容や関連イベント等について、以下に記す。

経緯について

2024年夏頃、2025年度に開催予定の被爆80年特別企画展「被爆樹木」の展示内容について検討していたところ、被爆樹木の種子や苗木を国内外へ届ける活動を行うGreen Legacy Hiroshima（GLH）の委員会メンバーである堀口樹木医を通じて、GLHのノルウェーのパートナーである中英公子氏との協力の話が進み、同年11月に、中氏から当園へアート展の開催について打診があった。これに対し、園内で実施する方針を決定し、その後、オンラインミーティングや中氏らによる園内視察等を重ね、展示内容や広報などの具体化を進めた。開催日時について、当初は特別企画展と同じ時期を検討していたが、8月にはノルウェーでの展示会が予定されていたため、準備期間等を考慮し、11月に開催する運びとなった。堀口樹木医には資材の提供を受けたほか、設営時には日本樹木医会広島県支部にも協力いただいた。

この度のアート展はノルウェーのアーティストによる被爆樹木を題材とした3部作からなる展示会の最終章として実施された。初回は2024年6月スタバンゲル市植物園で開催された「Messages from the Silent Witnesses（沈黙の証人たちからのメッセージ）」、2回目は2025年8月にオスロ自然史博物館植物園で開催されたアート展「Hibakujumoku – trærne blant oss（被爆樹木 - わたしたちと共にある木々）」であり、2017年12月ICANノーベル平和賞の際に、オスロ大学自然史博物館にて行われた種贈呈セレモニーをきっかけとしたもので、ノルウェーで創作した作品が広島（日本）に帰郷するというストーリーを締めくくるものであった。

展示内容

会場は香りの小径から東屋までの園路に設けた屋外展示場（図1、写真1、2）と森のレストラン内の屋内展示場（図2、写真3）の2か所で実施した。屋外展示場では、音響作品と風や鳥のさえずりなどの環境音に耳を傾けながら、樹間につるされたタペストリーを観賞できるほか、地面と平行に展示した作品ではアカメガシワで作った枝マット（写真4）に寝転がって観賞することもできた。屋内展示場にはジャガード織りのタペストリー、映像作品、音響作品を展示し、屋内屋外あわせて22点の展示となった（表）。11月22日（土）と11月29日（土）は夜間開園があったため、特別に2日間は夜間のライトアップも行った（写真5）。

写真１　屋外展示場の様子①

写真２　屋外展示場の様子②

写真３　屋内展示場の様子

写真４　アカメガシワで作られた枝マットとアート作品
（中奥岳生氏撮影）

写真５　ライトアップの様子

表　アート作品の一覧

香りの小径から東屋

No	作品	作者	形態	縦×横 (cm)
①	ユーカリ　広島城二の丸跡	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
②	クロガネモチ　白神社前平和大通り	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
③	ユーカリ　広島城二の丸跡	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
④	クロガネモチ幹　白神社前平和大通り	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
⑤	ユーカリ　広島城二の丸跡	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
⑥	２世　イチョウ　ノルウェー、オスロ植物園内	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑦	２世　カキ　ノルウェー、オスロ植物園内	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑧	クロガネモチ　白神社前平和大通り	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
⑨	クスノキ　三篠神社境内	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑩	イチョウ　縮景園内	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑪	ユーカリ　広島城二の丸跡	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑫	クスノキ　基町交番前	アシュリー友実子	タペストリー	300 × 200
⑬	白 - 長崎、マーシャル諸島などの原爆被害にあった場所へのオマージュ。	アシュリー友実子	タペストリー	200 × 300
⑭	クロガネモチ　モノクロ (2025 年)　と枝マット	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	200 × 300
⑮	クロガネモチ　カラー (2025 年)　と枝マット	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	150 × 200
⑯	Jumoku1	ジョン・デレク・ビショップ	音響作品	約 10 分（ループ）

森のレストラン内

No	作品	作者	形態	縦×横 (cm)
⑰	カキ（2024 年）愛宕池にて。	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	175 × 230
⑱	カキ２世（2025 年）スタバンゲルにて。	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	120 × 85
⑲	クロガネモチ（2024 年）広島城にて。	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	175 × 230
⑳	クロガネモチ２世（2025 年）スタバンゲルにて。	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	タペストリー	120 × 85
㉑	Root,Stem,Crown/ 根、幹、樹幹（2025 年）	ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ	映像作品	約 5 分（ループ）
㉒	Jumoku2	ジョン・デレク・ビショップ	音響作品	約 15 分（ループ）

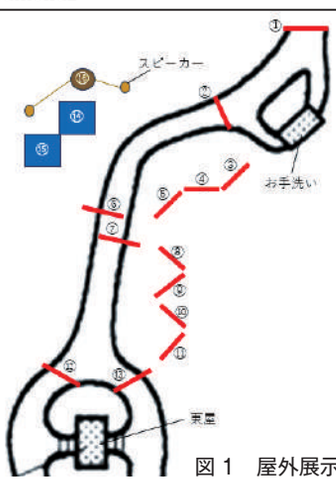

図１　屋外展示場の配置図

図２　屋内展示場の配置図

アーティストについて

ヘレーネ・エスペダール＝セルヴォーグ（Helene Espedal-Selvaag）

1967年ノルウェー生まれ。ノルウェーを拠点に活動する学際的アーティスト。自然と人間性の交差点に焦点を当てたインスタレーション作品を制作し、ビデオ、織物、彫刻、写真、ドローイングなど多様なメディアを用いながら、自然の内在的価値と人間中心主義を超えた視座を探究している。

アシュリー友実子（Yumiko Ashley）

1970年日本生まれ。ノルウェーを拠点に活動する写真家・ビジュアルアーティスト。カメラを基盤としたアプローチを通じて、「自然としての人間」をテーマに作品を制作している。

ジョン・デレク・ビショップ（John Derek Bishop）

1985年ノルウェー生まれ。スタバンゲルを拠点に活動する作曲家／プロデューサー。ノルウェー国内外で高い評価を得ており、サンプリング、テープマシン、モジュラー・シンセサイザー、サンプラーなどのアナログ機材を駆使し、エクスピリメンタルエレクトリックミュージックの分野で独自の音響世界を構築している。

ノルウェーのアーティストグループ「Jumoku」一行とクリスティン・イグルム駐日ノルウェー大使の市長表敬訪問

広島でアート展を行うことを中氏から聞いたイグルム大使が強い関心を持たれ、大使が来広された。

令和7年11月7日(金)イグルム大使、アーティストグループらが、広島市長を表敬訪問し、アート展開催意義等の伝達、オスロ市長からの親書の手交、アーティストグループJumokuからのプレゼントの贈呈が行われた（写真6）。

アート展

「Hibakujumoku - the trees in a community - Kikyo 帰郷」オープニングイベント

令和7年11月8日（土）13時半から30分間、イベント広場にて開催した（写真7）。参加者はアート展関係者など約50名でアート展関係者が多く、登壇者はイチョウやナツミカンの被爆樹木2世の苗木を手に持って登壇した。開会の挨拶を当協会荒瀬尚美理事長が行った後、ノルウェーに渡った被爆樹木の種子が、アート作品となって広島に帰郷する経緯を、中氏と筑波大学名誉教授の鈴木雅和氏が紹介し、アーティストが作品の紹介を行った。また、イベントの最後にはイグルム大使が登壇し、高らかに開会宣言を行った。イベント終了後は各自で展示を観覧する他、記念撮影をするなど和やかな雰囲気で終了した。

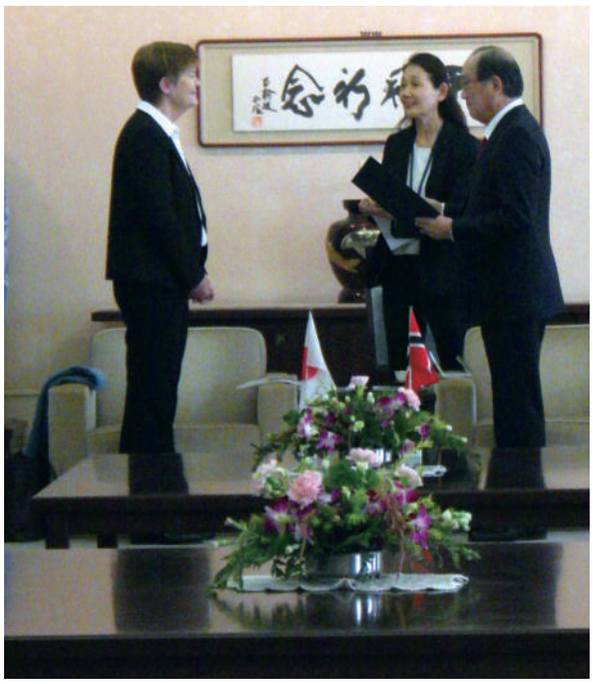

写真６　市長訪問の様子

写真７　オープニングイベントの様子（中奥岳生氏撮影）

絵本の読み聞かせ

令和7年11月16日（日）の10時半と11時半から各回30分間、アート展の屋外展示場にて開催した（写真8）。

本の読み聞かせボランティアグループ「ぐるんぱ」に協力いただき、「ICAN　希望の花の物語」「パンフルートになった木」等を朗読した。入園口から遠い位置にあったこともあり、参加者は

前半7名、後半5名の合計12名と少数となったが、秋の紅葉と美しいアート作品に囲まれた素晴らしい環境の中で、朗読に耳を傾けていた。

当日は「ICAN　希望の花の物語」の販売も行った。

写真８　絵本の読み聞かせの様子（中奥岳生氏撮影）

まとめ

開催期間（11 月 8 日～ 11 月 30 日）の計 20 日間（金曜日は休園）の総入園者数は 10,625 名であった。アート展の屋外展示場が入園口から遠く、来場者が少なくなる懸念があったため、園内各所に誘導看板を増設する他、土日祝には園内放送を行い、来場者が増えるように努めた。また、従来の広報だけではなくシャレオ地下街のデジタルサイネージで広報を行うなど、より多く来園者を呼び込むことが出来るように努めた。

紅葉の時期と重なったこともあり、サウンドインスタレーションとタペストリーが香りの小径をより一層引き立てたように感じた。枝マットに寝転がり観賞する方や、ベンチに腰掛けて鑑賞する来場者も見られた。

謝辞

本展示会には、下記の方々にご協力いただきました。ここに深く感謝の意を表します。

後援団体（50 音順）

オスロ市、スタバンゲル市、ノルウェー外務省、FrittOrd 財団、Bergesen 財団、広島市、ローランド県

協力団体（敬称略、50 音順）

グリーン・レガシー・ヒロシマ、Jumoku、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima、日本樹木医会広島県支部、本の読み聞かせボランティアグループ「ぐるんぱ」、Holt&Paulsen

協力者（50 音順）

クリスティン・イグルム様、鈴木雅和様、堀口力様